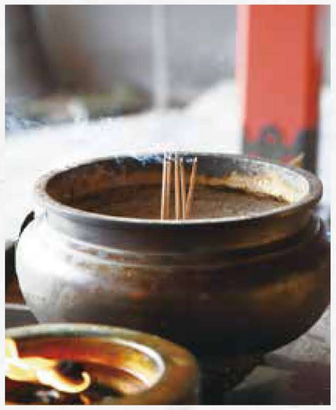
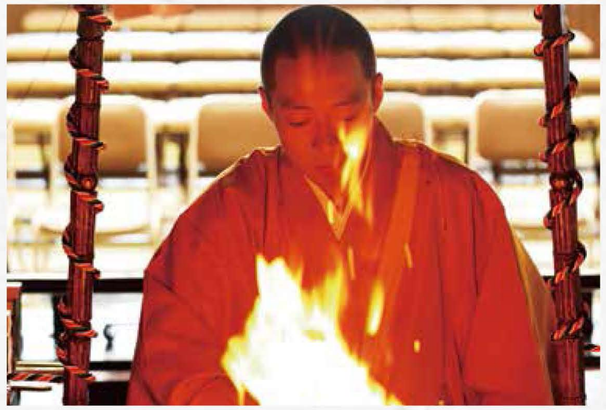
巻頭特集

豊中不動尊

知るほどに訪ねたくなる地元の寺院

その昔、なだらかで美しい山ということで万葉以来の由縁がある場所として知られる土地、豊中北部。地域の安穏を祈る『豊中不動尊』の歴史や活動について、住職・谷さんの話を交えながら紹介する。





豊中の身近な寺院で再発見 心穏やかに新年のご挨拶

豊中市北部島熊台地に現存し、「島熊山のお不動さん」として親しまれる寺院。戦後、「豊中駅」前の市街地整備のために移転を余儀なくされた民間信仰の守護尊会を、島熊山新住宅開発地（緑丘）に地元の資産家が発願主となって昭和38年（1963年）12月8日に地域の安穏発展を祈念開創。「正式名は『真言宗単立 紫苑山（しえんざん） 豊中不動寺（とよなかふどうじ）』ですが、昭和51年（1976年）頃から通称『豊中不動尊』の名で地域に定着していきました」と住職の谷さんが語ってくれた。

本尊「不動明王」は、成田下総守（しもふさのかみ）が兜に飾っていた1寸8分の「不動三尊像」を胎内に納めた木彫尊像と伝えられている。また、その胎内仏「不動三尊像」については、当山開基・竹浪正義僧正が、戦後間もなく東京にある『深川不動尊』へ復興の手伝いに行った際、お礼として託されたものを祀られたそうだ。

▲ 胎内仏の「不動三尊像」

開門後の境内は、自由に入ることができ拝観無料。境内敷地の建物には、「本堂」・「三宝殿（さんぼうでん）」・「城白山（しろはくさん）」・「水かけ不動」・「絵馬堂」・「茶室」などがあるなか、回る順番を質問すると、「清め水で手を清めた後、本尊を祀っている本堂から参拝することが理想的ですね」と答えてくれた。祈願について「当山の主な祈願項目は家内安全・交通安全・開運厄除・災難削除・心願成就などがあげられます。また初参り（お宮参り）・七五三参り、ランドセル祈祷なども行います」。年中行事として毎月28日に開運の成就を祈る「不動縁日大護摩供」がある。

また、元旦から1月15日まで開運招福、厄除祈願の「新年祈祷会」が毎年あり、護摩といわれる木札に願いを書いて新しい年の発展や安寧を祈る行事が午前・午後に分かれて行われる。

住職 谷（たに） 真光（しんこう） さん

「親しみやすさを感じる地元のお寺として、これからもたくさんの人たちに気軽に訪ねてもらえると嬉しいです」

豊中不動尊のみどころ

ここに注目！ 夜泣石

本堂近く開運絵馬のすぐ下にある

夜泣きが治まるパワーストーン

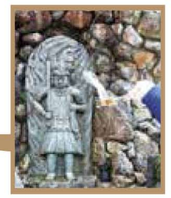
戦国時代、荒木村重の家臣が織田軍兵との死闘で主君を守った末、石に腰かけて自決したと伝わる。その後、慶長時代に殿様がこの石を庭に好適だと持ち帰ったところ、石が夜な夜なすすり泣くため山に戻したなど諸説定かではない。『豊中不動尊』で祈祷後、境内へ移した現在は、夜泣きが治まるとして崇められ石に触れることも可能。周りの小石を初参り後に「歯固めの石」として持ち帰り、お食い初めの後に返納するのだそう

ここに注目！ くりぬき厄除け絵馬

絵馬堂の中にかけてある

「厄」の文字が抜けているのが印象的な絵馬。志納料500円。年齢（数え年）を記入して厄除け箱の上で絵馬を持ち、「厄」の文字に向けて三度息を吹きつけ、文字をくりぬいて箱に納める

ここに注目！ 水かけ不動



立派な屋根が目印！

直接水をかけ、自身の心を清めて祈願する。不動以外にも八大竜王の石碑や弘法大師と刻まれた石像など、豊中各地などに納められていたものが縁あって『豊中不動尊』に運ばれ祀られている

地域との関わりを大切に 伝統文化を後世に伝える役割

境内の朱色が美しい立派な本堂周辺には、多くの参拝者が見受けられた。「開門後すぐに来られて掃除を手伝ってくれる方がいたり、イベントや行事に積極的に参加されたりする方たちはご近所の方が多いです。こうしたつながりが大変ありがたいですね」と語る。

毎年恒例ではお釈迦様の誕生に由来した春のイベント「花まつり」（4月8日）が開催され、子ども向けの無料体験コーナー（お能体験・ほら貝体験など）では和の文化に触れられるほか、無病息災にご利益があるといわれる甘茶も味わえると喜ばれている。夏の行事としては「ふれあい祭り」があり、和太鼓や金魚すくいなどが準備され大人から子どもまで、たくさんの人が祭りを楽しむそうだ。仏様に手を合わせることや近所同士の付き合いが希薄化する現代にとって、新たなきっかけから憩いの場となるような役割がお寺にはあるのだろう。

▲ 古来より多くの歌が詠まれていた島熊山。「玉かつま 島熊山の夕暮に ひとりか君が 山道越ゆらむ」と記されている。この歌は、千里を詠んだ最も古い一首「万葉集巻十二」に出ているもので、「万葉集歌碑」の全長は5m

地域の人たちと寄り添い 自然に笑顔が増える活動

『豊中不動尊』の特徴として、寺務所の建物2階に『紫苑閣能舞台』がある。古典芸能の発展を願い文化伝承の発信の場として地域の人たちに開放しており、主に平日は能・狂言などの教室、土日祝には、貸し舞台として利用。能開催では人間国宝の先生が舞われるほか、能楽を体験できる「子ども能」を実施しているそうだ。そのほか「素人落語会」や「おもしろ仏教講座」といった充実した内容の催しもあり、書道教室や茶道教室など文化講座に関しても幅広く安心して通えると好評。「見学も気軽に対応しています。ご質問だけでもいいので、気になる講座があればいつでもお越しください。最近では体を動かす太極拳などもありますから」と話す谷さん。常に身近に感じてもらえる寺院でありたいと願う気持ちが伝わってきた。

寺院としての歴史はまだ新しいが、各地から寄せられた本像や石碑は豊中の地で多くの人たちを守り、また日々参拝者を温かく迎えている。新年を迎えるこの機会に足を運んでみてはどうだろう。

▲「子ども能」で和の文化を学ぶ機会に夢中になって参加する子どもたち

季節行事

◆花まつり（4月）

体験コーナーで子どもたちが楽しそうに住職から学んでいる。写真は「ほら貝体験」の様子

◆ふれあい祭り（8月）

境内は提灯のあかりと参加者で活気あふれる雰囲気

豊中不動尊（とよなかふどうそん）

住所：豊中市緑丘 2-14-8
電話：06-6854-1692
http://fudouson.jp

文／眞吉友紀　デザイン／小林亜由　写真／Ayami　写真提供／豊中不動尊